

# 低学年編

—その子とその子になれる時間を大切に—

お茶の水女子大学附属小学校 教諭

岡田 博元



四月、一年生の子どもたちは、学校という新しい世界に、それぞれの期待と不安を抱いて入学してきました。そのとき、まず大事にしたいのは、その子とその子になれる時間を保障することです。「言葉」を紹介してそういった場づくりをしていくことは、その後の教室の学びをつくっていくうえでも重要な意味をもってきます。



▲サークルタイムの様子

を、子どもに意識づけるのです。

平仮名の学習が始まったばかりの時期であれば、ノートに丁寧に「ちょう」と書かせて、そこに、モンシロチョウが二匹飛んでいる絵を描かせます。絵に表すことで、二匹という数や、「白い紙に白いチョウを描くには？」という、色の使い方の学習にもつながります。

一年生の生活は学びにあふれており、ここには、国語、算数、図画工作という線引きはありません。子どもたちの興味・関心からその日の学びが生まれていくように、「サークル対話」のような時間を大事にしています。

## サークル対話

私が一年生の教室で初めに行うのは、みんなが集まって、その人を感じる場と時間をつくることです。教室の前方を空けて丸椅子やベンチでサークルを作り、そこで自分たちの興味や思いを語る「サークルタイム」を設けています。

入学したばかりの時期は、話を聴き合って、言葉を交わしていくことは難しいので、絵本の読み聞かせをしたり、簡単なコミュニケーションゲームをしたりしながら、「みんなで聴き合う時間」をつくっていきます。言葉だけで伝え合うのではなく、そこで話されたことを自分たちの活動として実際にやってみる、やってみて気づいたことや感じたことを、またサークルになって伝え合うというところまでを含んでいます。「自分たちの声で、教室の活動が動いてい

## 本に親しむ

これから紹介する活動は、前述の「サークル対話」から発展したものです。一年二学期からは、「サークル対話」の中に、好きな本の発表も加えていきます。一人の発表をきっかけに、他の子どもたちも「本を手にとってみよう」と思えるよう、扱いを工夫しています。

一つは、「読み聞かせ」です。子どもが発表した本を教師が読み聞かせます。短い絵本ならその場で読み、長いものなら複数回に分けて読みます。私は帰りの会の中で読むことが多いです。

文字を読めるようになったばかりの子が、自分で読みながら絵を見ると、読み聞かせを聴きながら絵を見るのでは、想像力の働かせ方が違います。集中して聴き、物語の世界に入り込むことで、想像力をたくさん働かせることができます。

本の発表が日常化するには、環境面の工夫が必要です。読み聞かせた本の表紙をコピーして掲示したり、「読み聞かせ予約ボックス」を置いたりすることで、自分が発表した本が取り上げられたという実感をもたせます。もっと本を紹介しようと思える環境をつくるのです。

くんだ」ということが感じられると、子どもたちは自分の関心事を言葉で表したくなり、自分とは違う関心事をもっている「他者」を感じられるようになっていくのです。例として、サークル対話で次のような話題が出たときの学習展開をご紹介します。

話し手 ……朝、ちようちよが飛んでいました。  
聴き手A ……どこで見つけたの？  
話し手 ……畑の所。  
聴き手B ……見た見た！ 二匹いたよ。  
聴き手C ……何色だった？  
話し手 ……白。  
聴き手D ……モンシロチョウだ。

ここで私は、「どこで見つけたの？」「何色だった？」という発言を改めて取り上げて、よい質問だったと褒めます。これらの質問によって、話がつながっていったこと

二つ目は、「読書ゲーム」です。子どもたちが反応しやすい作品の特徴を使って、読み聞かせの後にゲームを行います。

例えば、一度読み聞かせた後に、わざと違う表現を入れて読む「ダウトを探せ」は、その作品の特徴的な表現を意識させる効果があります。

「読書ゲーム」に適した本は、教師が選ぶこともあります。次の表は、昔話を集めて帯単元を行ったときのものです。

| 学習材(本)    | 学習活動                         | 作品の特徴      |
|-----------|------------------------------|------------|
|           |                              |            |
| 天にのぼったおけや | 何の音？<br>(擬音語を考える)            | 擬音語<br>擬態語 |
| ねずみきょう    | ダウトを探せ<br>語り口調を工夫した<br>音読の対比 | 対比<br>構造   |
| 見るなの座敷    | 座敷の中を想像する<br>(場面絵・紹介文)       | 繰り返し       |
| 米福栗福      | シンデレラとの比較<br>(場面展開を考える)      | 比較         |

※一つの作品に1〜2時間充てる。

国語の時数の多い低学年では、このような帯単元をつくりながら、子どもたちが本に関心をもてる機会を繰り返し設定することを意識しています。